

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 月曜日7校時	必修選択 必修	単位数 2
授業科目(英語名)	教養セミナー (First-Year Seminar)		
対象年次(標準履修年次)	1年次	講義形態 講義	教室 (別指示)
対象学生(クラス等)	新入生全員	科目分類	共通基礎科目
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー			
青山 繁 ・ 福澤 勝彦 ・ 村田 省三 ・ 山下 耕治			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。 授業方法:1 クラス 15 名程度で構成し、原則として 1 名の教員が前期を通じて担当する 授業到達目標:① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り,ものの見方,考え方の多様性を知る。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
1. 原則として1名の教員が前期を通じて担当,指導する。 2. 単位は 15 週(30 時間)で 2 単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう,討論,実習,実地調査など体験的で双方向的学習形態をとるが,具体的な実施方法については,担当教員が決める。 3. 教養セミナーのテーマは,大学教育へのオリエンテーション機能を持つことなどを考慮し,学生との話し合いを重視する。			
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加,情報の収集状況・分析など),プレゼンテーション(分かりやすい資料,話の構成,説得力など),レポート(構成,文書表現など)により総合評価する。 (詳細は授業開始時に各担当教員から提示する。)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 火 6	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅠ (English CommunicationⅠ)		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室 メディアステーション	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 吉村 宗 司 / Eメールアド`レス: yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp/ 研究室: 非常勤講師控室 /TEL:826-5344(長崎女子短期大学) /オフィスアワー:授業の前後(教室:メディアステーション)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語)-必要最低限の英語(米語)-を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。 授業方法:まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。 授業到達目標:本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。 第1回 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか) 第2回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について 第3回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説/『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則) 第4回 [t][d][g]の脱落/[t][d]のラ行音化/連結しない場合の[i]/[h]の脱落 第5回 『同化』を聞き取るパターン①(半母音[j]に絡む音変化) 第6回 『同化』を聞き取るパターン②([n]の後続音への影響) 第7回 [r]の発音/『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン 第8回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン/『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン 第9回 On an Airplane(1) 第10回 On an Airplane(2) 第11回 At an Airport(1) 第12回 At an Airport(2)/VTR 視聴/ニュースを聞き取る 第13回 Taking a Taxi/VTR 視聴/洋楽を聞き取る 第14回 Taking Public Transportation/洋楽を聞き取る 第15回 全授業の総括(試験を含む) ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。			
キーワード	音法		
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング-聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR 教材)		
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況 20%)等の総合判定によって評価を行なう。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	配布された教材に対する予習復習は必須である。力をつけたければこれを毎回確実に実践すること。		

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 火 7	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅠ English CommunicationⅠ			
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室		
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類		外国語科目(英語)	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 吉村 宗 司 / Eメールアド`レス: yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp/ 研究室: 非常勤講師控室 /TEL:826-5344(長崎女子短期大学) /オフィスアワー:授業の前後(教室:メディアステーション)				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であって、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語)-必要最低限の英語(米語)-を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。 授業方法:まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。 授業到達目標:本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であったことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。 第1回 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか) 第2回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について 第3回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説/『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則) 第4回 [t][d][g]の脱落/[t][d]のラ行音化/連結しない場合の[i]/[h]の脱落 第5回 『同化』を聞き取るパターン①(半母音[j]に絡む音変化) 第6回 『同化』を聞き取るパターン②([n]の後続音への影響) 第7回 [r]の発音/『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン 第8回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン/『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン 第9回 On an Airplane(1) 第10回 On an Airplane(2) 第11回 At an Airport(1) 第12回 At an Airport(2)/VTR 視聴/ニュースを聞き取る 第13回 Taking a Taxi/VTR 視聴/洋楽を聞き取る 第14回 Taking Public Transportation/洋楽を聞き取る 第15回 全授業の総括(試験を含む) ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。				
キーワード	音法			
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング-聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR 教材)			
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況 20%)等の総合判定によって評価を行なう。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ/学習・教育目標				
備考(準備学習等)	配布された教材に対する予習復習は必須である。力をつけたければこれを毎回確実に実践すること。			

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 火・6	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅡ (English Communication Ⅱ)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:白水桂子 /Eメールアドレス:kuwata@nagasaki-u.ac.jp /研究室:東南アジア研究所2階 オフィスアワー:Eメールで受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: VOAのニュースの原稿と音声を使って作られたテキストを用いて、リスニングやリーディングの技能の向上を目指します。 授業方法: 予習する箇所を指定するので、何度もCDを聴いて空所補充等の練習問題をして下さい。授業では、予習箇所の確認、発音の練習、ニュースの内容の把握を行います。また、語彙力強化のための練習問題なども適宜行います。 授業到達目標: 音声によるニュースの内容を把握する力の向上。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 毎回1つのUnitのニュース内容を見ていきます。予習で行ったリスニングの確認や音読、語彙の説明、ニュースの内容把握、文法事項の確認等を行います。 第1回 Allowances for Children 第2回 Education around the World 第3回 College or University? 第4回 Rural Exodus 第5回 Press Freedom 第6回 Rules for Drinking 第7回 小テスト 第8回 Secondhand Smoke 第9回 The Future of Forests 第10回 No Life Without Water 第11回 No More Fish? 第12回 The Rising and Falling Dollar 第13回 Bulls and Bears 第14回 The Wealth Gap 第15回 まとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	小林・克蘭キー(著) VOA Special English: Listening-Reading Spiral(VOA で学ぶ現代アメリカ事情) 南雲堂		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度等 30% 小テスト、期末テスト 70%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 火 7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅡ (English Communication Ⅱ)		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)		
担当教員: 丸山真純 /Eメールアドレス: masazumi@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 東南アジア研究所 312/ オフィスアワー: 17:30-19:30-20:00, Tuesday			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
授業のねらい: 英語による表現力の向上(語彙や慣用表現など)。基本的な動詞によるさまざまな表現の理解と運用力の向上(例えば、make, give, run など)。また、易しい英文の読解力の向上などをねらいとする。			
授業方法: 教科書に依拠しながら、担当者による説明や解説、受講生による演習を中心とする。概ね、二回の授業で一つの Lesson を終える予定。Lesson を二つ終えるごとに、小テストを行う。詳しくは初回時に説明します。			
授業到達目標: 英語運用能力の向上(特に、読解力、語彙力)。基本動詞表現の理解。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
授業内容(概要) 教科書に依拠しながら、英語力の向上をねらう。具体的な内容は以下の通り:			
第1回	Introduction (講義概要紹介)		
第2回	Lesson 1 Body Language in Peanuts: non-verbal communication		
第3回	基本動詞 make		
第4回	Lesson 2 Lucy's Psychiatry Stand: money and social status		
第5回	基本動詞 give		
第6回	Lesson 3 Friends Forever: modern life and stereotypes		小テスト①
第7回	基本動詞 run		
第8回	Lesson 4 Peanuts as a Social Group: sense of belonging		
第9回	基本動詞 come		
第10回	Lesson 5 Schroeder the Music Lover: personal and group identity		小テスト②
第11回	基本動詞 get		
第12回	Lesson 6 Girls in Peanuts: sex and gender		
第13回	基本動詞 take		
第14回	Catch-up and Review		
第15回	まとめ		小テスト③
教科書の扱わなかった Lessons は、2年次に扱う(2つの学期で一冊の教科書を終える)。			
キーワード	基本動詞		
教科書・教材・参考書	Textbook: <i>Enjoy English with Charlie Brown and Friends: Language and Culture in Peanuts.</i> Haruko TOYAMA, Nanundo.		
成績評価の方法・基準等	①課題提出(10%);②小テスト(75%:3回);③出席・授業への積極的参加(Class Participation)(15%)から総合的に評価します。 (初回に詳しく説明します)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。 辞書は必ず毎回持参すること。		

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 木6	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅢ (English Communication Ⅲ)		
対象年次 2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 白水桂子 /Eメールアドレス:kuwata@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 東南アジア研究所 /オフィスアワー:E メールで受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: DVD の視覚情報を手掛かりにして英語による発話内容を把握する。 授業方法: DVD の中で使用されている語彙や表現の確認をしながら内容を把握していきます。またテキストの英文読解もします。 授業到達目標: ナチュラルスピードで話されている英語に慣れ、理解度が高まること。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) テキスト添付の DVD を予め視聴してきて下さい。リーディングの部分については割り当てをします。 第1回 オリエンテーション、DVD 視聴 第2回 Language: the road to miscommunication 第3回 Big Decisions: the less common path 第4回 Friendship: the simple joys 第5回 Emotional Health: taking care of ourselves 第6回 The World: travel and tradition 第7回 Celebration: sense of community 第8回 小テスト(予定) 第9回 Giving Birth: the old and the new 第10回 Music: so basic, so mysterious 第11回 Gender and Language: hidden sexism 第12回 Newspapers: different roles 第13回 Art: all about life 第14回 Information Technology: finding a balance 第15回 まとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	Clara Birnbaum/高山一郎(編著) Getting Personal Using Videoclips: Watch, Listen and Read(松柏社)		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度 40% 小テスト、期末試験等 60%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 木 6	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーションⅢ (English Communication Ⅲ)		
対象年次 2年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)	
担当教員: 丸山真純 /Eメールアドレス: masazumi@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 東南アジア研究所 312/ オフィスアワー: 17:00-18:00, Thursday			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
授業のねらい: 昨年と同様の教科書を用いながら、コミュニケーションのための英文法の理解に努める。英語を運用するには(話す、聞く、書く、読むに関わらず)、他の要素と合わせて、英文法の知識が不可欠です。 本授業では、基礎的な英文法を確認しながら、英語による表現力の向上をねらう。 教科書に基づきながら、解説をし、受講生には授業内外を通じ、練習(や練習問題)を行ってもらおう。毎回簡単な語彙や表現に関するテストがあり、数回の小テストを行う。こうした授業内外で英語に触れることによって、英語力向上をねらう。 授業方法: 担当教員による基本的文法事項の講義・解説。演習問題などの演習。 授業到達目標: 基本的文法事項の習得。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
授業内容(概要) 教科書に基づき、以下の文法事項に関する表現を習得し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。			
第1回	Introduction (講義概要紹介)		
第2回	UNIT 9 ANGELES IN WHITE		
第3回	動名詞		
第4回	UNIT 10 ROBOT		
第5回	分詞		
第6回	UNIT 6 ONLINE SHOPPING	小テスト①	
第7回	助動詞		
第8回	UNIT 12 LET'S GO TO A MUSEUM!		
第9回	関係詞		
第10回	UNIT 13 MISS YOU	小テスト②	
第11回	仮定法		
第12回	UNIT 11 BAND CONTEST		
第13回	比較		
第14回	UNIT 14 GOODBYE, LINDA		
第15回	否定の表現	小テスト③	
キーワード	英文法		
教科書・教材・参考書	ENGLISH QUEST BASIC, ONO et. al, KIRIHARA SHOTEN. (1年次と同じ)		
成績評価の方法・基準等	①CD 課題提出(15%); ②語彙ミニテスト (15%); ③小テスト(60%); ④出席・授業への積極的参加 (Class Participation) (10%)から評価します。 (初回に詳しく説明します)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。 辞書は必ず毎回持参すること。		

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 水 7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語 I (Comprehensive English I)		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	経済夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 前川智子 /Eメールアドレス: t-mae@athena.ocn.ne.jp / 研究室:非常勤講師控え室 /TEL:819-2079 /オフィスアワー:授業中及び授業の前後 10 分間			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 身近なトピック・テーマを扱いながら、総合的な英語力を高めることがねらいである。			
授業方法: 授業時間を有効に利用するために、英文を読む・書くことは宿題とし、授業中はその宿題を元にもっぱら英語で話す・聞くというペア活動を行なう。毎週の課題を行った上で授業に望むことと積極的に英語で話すことが要求される。質問があれば授業中に遠慮なくして欲しい。			
授業到達目標: 自分のこと(出身・仕事・趣味・旅行など)や家族のことを英語で詳しく書き、発表することが出来、更にそれについての会話をすることが出来るようになる。1.5 ページ程度のアメリカ文化等についてのエッセイを読み、要点を理解できるようになる。英文の音読・発音・イントネーションが上達する。更に、長崎原爆について英語で説明ができるようになる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 使用するテキストは、各章の初めに基本表現をマスターし、次にそれを応用して話し・聞く・書く・読む演習を重ねながら、徐々にその量を増やしていくように構成されているので、それに従って進めていく。今までに習得した英語力を活かし、また、語彙を増やししながら自由に英語で話し・聞き・書き・読めるようになるまで練習を重ねる。CD を利用し、overlapping, shadowing の練習で英語らしい音に敏感になり、リスニング力・スピーキング力の向上を目指す。更に、原爆アニメ『アンジェラスの鐘』の英語字幕の英語表現も学ぶ。			
第1回 Orientation / Skit 1+2 (Nice to meet you, Family) / Writing 1+2 (homework) 第2回 Tom's Life- 1 (reading and writing) / Conversation 1+2 (Nice to meet you, Family) 第3回 Nagasaki Angelus Bell 1 / Skit 3+4 (Clubs and Jobs) / Writing 3+4 (homework) 第4回 Tom's Life - 2 (reading and writing) / Conversation 3+4 (Clubs and Jobs, Hobbies) 第5回 Nagasaki Angelus Bell 2 / Skit 5+6 (Traveling, Food and Cooking) / Writing 5+6 (homework) 第6回 Conversation 5+6 (Traveling, Food and Cooking)/ Tom's Life - 3 (reading and writing) 第7回 Nagasaki Angelus Bell 3 / Skit 1~6 / Tom's Life 1~3 第8回 Nagasaki Angelus Bell 4 / Self introduction (presentation) (レポート提出) 第9回 Nagasaki Angelus Bell 5 / College Education in America (reading) 第10回 Nagasaki Angelus Bell 6 / Regional food in America (reading) 第11回 Nagasaki Angelus Bell 7 / Health System in America (reading) 第12回 Nagasaki Angelus Bell 8 (presentation) (レポート提出) 第13回 Holidays in America (reading) 第14回 Parties in America (reading) 第15回 授業の総括 (試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	「English Communication in the Classroom」(開文社出版) Nagasaki Angelus Bell 副読本		
成績評価の方法・基準等	試験 (60%) 課題提出(20%) その他の宿題・授業中の活動 (20%)		
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。正当な理由があっても、欠席が 4 回以上となると定期試験を受ける資格を失う。30 分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。		
本科目の位置づけ /学習・教育目標	積極的に話を聞く・話す態度が身に付く		
備考(準備学習等)	毎回宿題(スキットの音読、エッセイの読解問題と音読、自己紹介文を書く・暗記する、原爆アニメ映画のストーリーを書く、等)を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。		

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 木・7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語Ⅲ (Comprehensive EnglishⅢ)		
対象年次 2 年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	経済夜間	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 山崎有介/Eメールアドレス:pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp/研究室:非常勤講師室/オフィスアワー:授業終了時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: ネイティブスピーカーのみならずノンネイティブスピーカーにおける英語によるコミュニケーションを学ぶ。国際語としての英語は、世界各地でのコミュニケーションとしての言語であることはもちろんであるが、日本国内における外国人とのコミュニケーションをとるためのツールである。「私たちの言語」という意識で学んでほしい。 授業方法: 毎回 1 章ずつ読み進めていくので、必ず予習すること。 授業到達目標: 書かれている英文の内容を正確に把握できると使える英語の習得を目標とする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) Before you read で本文の内容を推測し、本文にて Reading と Listening を通じ内容の把握をする。また、後半の Exercise にて Words to learn→Getting the main idea→Reading comprehension→True or false→Listening Comprehension→Think, write, and discuss!にて内容把握の確認を行う。 第1回 オリエンテーション 第2回 CHAPTER 1 New Englishes 第3回 CHAPTER 2 English in ASEAN 第4回 CHAPTER 3 English and the Middle East 第5回 CHAPTER 4 English and Volunteerism 第6回 CHAPTER 5 English in America 第7回 CHAPTER 6 Australia 第8回 中間のまとめ 第9回 CHAPTER 7 British Literature 第10回 CHAPTER 8 The Bible 第11回 CHAPTER 9 The Great English Divide 第12回 CHAPTER 10 Journalism and English 第13回 CHAPTER 11 Inclusive Education 第14回 CHAPTER 12 Early English Education 第15回 全体のまとめ(試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	The Bridges of English Language Across the world: International & Multicultural Perspectives Book 1 (松柏社)		
成績評価の方法・基準等	○定期試験 50%、中間試験 30%、小試験 10%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 水・7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語Ⅱ (Comprehensive EnglishⅡ)		
対象年次 1 年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	経済夜間	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 山崎有介/Eメールアドレス:pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp/研究室:非常勤講師室/オフィスアワー:授業終了時			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: The New York Times から The Japan Times に至る英文による新聞記事を読み、英文読解力を養う。 Reading、Listening、Vocabulary の総合的実力向上を目指す。 授業方法: Questions, words and Phrases, Summary により、本文を読む前の内容予想をしながら読解力を深める。 授業到達目標: 無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。 TOEIC や英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 各課ごとに事前の Questions/Words and Phrases/Summary/Reading/Exercises(Multiple Choice・True or False・Vocabulary)の順で行う。 第1回: オリエンテーション 第2回: Unit 1. Indian Dreams of success unfold at a high level of English Fluency インド、英語力で開く成功への道 第3回:Unit 2. CO ₂ -absorbing seaweed, algae may help solve warming 暖化・問題に朗報? CO ₂ を吸収する海藻 第4回: Unit 3. Barack Obama and Hillary Clinton have fervent fans in Japan despite rather tenuous connections オバマ対クリントン: 日本の勝手連 第5回: Unit 4. Metabolic syndrome あなたもメタボ? 第6回: Unit 5. Internet cafés become family-friendly to counter ‘refugee’ image ネットカフェ、難民イメージを払拭 第7回: Unit 6. Writer blogs her way to top literary prize ブログから文学賞受賞へ 第8回: 中間としてのまとめ 第9回: Unit 7. Kitajima completes breaststroke double, again 北島、平泳ぎで2大会連続2冠を達成 第10回: Unit 8. Suriname, a land of many languages, seeks its own 多民族国家スリナムで国語探し 第11回: Unit 9. Chinese parents favor foreign-brand toys even if made in China 海外ブランドのロゴマークに弱い中国の親たち 第12回: Unit 10. Tokyo snubs Michelin guide’s love 三つ星がそれほど好きではない東京 第13回: Unit 11. A shopping revolution for Cubans キューバ、新体制で規制 第14回: Unit 12. Stem cell trailblazer puts Japan at fore 万能細胞の研究で日本が一步リード 第15回: 全体のまとめ(定期試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	The Half-Edition of English through the News Media (Asahi Press)		
成績評価の方法・基準等	○定期試験 50%、中間試験 30%、小試験 10%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 金 7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	健康・スポーツ科学 Science of Health and Sports		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 健康・スポーツ科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 中垣内真樹/Eメールアドレス: gaichi@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 総合教育研究棟 2F /TEL: 095-819-2089/オフィスアワー: 月、火、木曜日 12:00～12:50、16:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	菅原正志、田井村明博、畑孝幸、西澤昭、山内正毅、日高正博、米倉暁彦、浦田秀子、青柳潔、 林田雅希、長谷敦子、有吉紅也、水野明夫		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 健康や身体運動に関する身体的、生理的特性、またはその社会的側面などについて理解を深め、実生活で役立つ知識の獲得をねらいとする。 授業方法: 授業で配布する資料を用いて健康や身体運動に関する基礎知識を講義形式で説明する。適時、身近なデータを用いた計算、分析、各自のライフスタイルなどの振り返りなどの演習もおこない実生活に役立つ知識も提供する。 授業到達目標: 生活習慣に関連する身体的・精神的疾病の基礎を説明できるようにする。生活習慣と健康、身体運動と健康の関連性を説明できるようにする。個々の生活習慣を振り返り、生活習慣を少しでも改善できるようにする。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 以下のテーマに従って健康や身体運動に関する身体的、生理的徳用またはその社会的側面などについて理解を深める。 第1回 菅原正志: スポーツ活動と熱障害 第2回 田井村明博: 運動とエネルギー、運動と筋肉 第3回 中垣内真樹: 運動と健康 第4回 畑孝幸: スポーツと健康の関係の考察 第5回 日高正博: スポーツの楽しみ方の工夫 第6回 山内正毅: 運動学習の心理学 第7回 西澤昭: リラクセーションの方法 第8回 米倉暁彦: スポーツ医学 第9回 林田雅希: 心の健康 第10回 水野明夫: 歯・顎・口と健康 第11回 浦田秀子: 成人病とライフスタイル I 第12回 青柳潔: 成人病とライフスタイル II 第13回 有吉紅也: AIDS と感染症 第14回 長谷敦子: 救急法 第15回 総括			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。 参考書: 学生と健康 (編) 国立大学等保健管理施設協議会 南江堂		
成績評価の方法・基準等	レポートまたは小テストの合計 100% 毎回のテーマに関するレポートを総合して評価する。各週のレポートあるいは小テストは、10 点満点で評価し、15回の平均で評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 木 7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	情報処理入門 Introduction to Computer Sciences		
対象年次 1・2 年次	講義形態 演習	教室 メディアステーション 1・2	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 情報処理科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 鈴木 斉 /Eメールアドレス: sigh@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 経済学部本館 321 /TEL: 095-820-6372 /オフィスアワー: 講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: コンピュータの操作を伴う演習を通し、機器の基本的な動作原理や特性について学習し、コンピュータの必要性の理解、および、専門課程での機器使用に対する準備を行う。 授業方法: 講義スタイルは第1回では座学、2～9回は演習を軸にコンピュータの基礎的な使い方の学習、第10回以降ではプログラミングの基礎的な考え方等を通して情報処理技術の応用方法について学習します。 授業到達目標: 1) コンピュータを使用しレポートの作成、発表、および、提出が行えるようになる。 2) コンピュータの基本的な動作原理を説明できるようになる。 3) 情報倫理を学ぶことで、出来ることと実行しても良いこととの区別・判断をつけられるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 第1回、および、14回の授業で情報倫理について学習、および、今までに習得した知識の整理を行い、第2回～9回ではコンピュータの基本的な操作方法の習熟が目的となります。 第10回以降の回ではコンピュータの動作原理や情報処理が可能となる原理について理解を深め、今後の専門課程での講義を受講する際にコンピュータを効率的に使うための方法について学びます。 第1回 ガイダンス(授業方法の説明)、セキュリティと情報倫理について学習します。 第2回 日本語入力、文書入力、電子メールの利用方法について演習を交えて学習します。 第3回 情報収集の方法、Wordの使い方1(文書編集・レイアウト変更)について演習を交えて学習します。 第4回 Wordの使い方2(文書編集・レイアウト変更・図表作成)について演習を交えて学習します。 第5回 Excelの使い方1(基本操作・各種計算)について演習を交えて学習します。 第6回 Excelの使い方2(関数・グラフ作成)について演習を交えて学習します。 第7回 PowerPointの使い方1(基本操作・画像加工)について演習を交えて学習します。 第8回 PowerPointの使い方2(アニメーション・プレゼンテーション)について演習を交えて学習します。 第9回 PowerPointの使い方3(発表練習)について演習を交えて学習します。 第10回 情報科学の進歩、および、コンピュータ発達の歴史について学習します。 第11回 コンピュータ内での情報の表現方法、アルゴリズム、プログラミングについて学習します。 第12回 2進数と論理演算、ハードウェア(論理回路の基本)について学習します。 第13回 2進数での計算方法について演習を交えて学習します。 第14回 情報化社会の課題、情報セキュリティの観点から情報倫理について学習します。 第15回 全授業の総括(試験を含む)			
キーワード	コンピュータ操作、ソフトウェア(Word, Excel, PowerPoint) 情報倫理		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しません。参考書は講義中に適宜紹介します。		
成績評価の方法・基準等	定期試験 40%(コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します)、 演習課題 50%(機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します)、 授業に対する積極的参加状況 10%(作業指示に従わない場合や演習の妨害行為等を減点対象とします)		
受講要件(履修条件)	特にありません。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。		
備考(準備学習等)	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、 毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間とすることが望まれます。		

年度 2009 学期 後期	曜日・校時	金 6	必修選択	選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(生命倫理学の諸問題) Humanity and Culture (Problems of Bioethics)				
対象年次	1・2年	講義形態	講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		科目分類	人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 林 大悟 / E メールアドレス: daigochan@jcom.home.ne.jp / 研究室: /TEL: /オフィスアワー:講義の行なわれる日(後期の毎週金曜日)午後 5 時 30 分から 6 時まで、非常勤講師室にて					
担当教員(オムニバス科目等)					
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 現代社会では、安楽死、人工妊娠中絶、臓器移植などを巡る倫理的な問題が数多く存在する。これらは我々自身の生命に関わることであり、根元的な意味で自由・権利・規範等に関わる問題でもある。このような生命倫理学の具体的な諸問題について考察し、我々の社会のよりよいあり方を考えると同時に論理的な思考を習得する。 授業方法: ビデオ鑑賞をもとに問題点を取り上げ、それに対する様々な見解を紹介し検討する。可能であればディスカッションを行う。講義毎に、講義内容に対する意見・質問・感想等を書いてもらい、それについてコメントする。 授業到達目標: 様々な見解を検討し、それを踏まえた上で自分自身の意見をもち、それを根拠付ける能力を身につける。					
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 安楽死、ホスピスケア、インフォームド・コンセント、人工妊娠中絶、臓器移植などの生命倫理学のテーマについて何が問題になっているかを明らかにし、それぞれについての様々な見解を紹介する。それらを吟味した上で、各人の見解とその根拠「なぜそう言えるか」を提示してもらう。教員はあくまでも中立的な立場に立つので、学生は自分自身の意見をはっきりと持ってもらいたい。生命倫理学のテーマについて考えると同時に、倫理学の基本的なテーマである「自由」「権利と義務」「法と倫理」などについても論じる。 第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 生命倫理学とはなにか? 第 3 回 安楽死 新たな死のかたち 安楽死と尊厳死 第 4 回 安楽死の歴史的背景 第 5 回 安楽死の権利とは何か? 第 6 回 安楽死制度を認めるべきか? 第 7 回 権利と義務 第 8 回 終末医療とホスピスケア 第 9 回 インフォームド・コンセント 医療における患者の自由の獲得 第 1 0 回 がん告知、輸血拒否の問題をどう考えるか? 第 1 1 回 人工妊娠中絶 中絶賛成か中絶反対か? 第 1 2 回 中絶擁護論の検討 第 1 3 回 脳死と臓器移植 脳死という新たな死 第 1 4 回 臓器不足をいかに解消するか? 第 1 5 回 授業の総括(試験含む)					
キーワード					
教科書・教材・参考書	参考書:『よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学』、篠原駿一郎・石橋孝明編、ナカニシヤ出版				
成績評価の方法・基準等	講義に対する積極的な取り組み状況(配点 10%)と学期末試験(持ち込み可)(配点 90%)で評価する。				
受講要件(履修条件)	受け身の講義ではなく、意見・感想等を積極的に交わす講義を目指します。皆さんの自由で活発な発言を期待します。考えることの好きな人大歓迎です。				
本科目の位置づけ/学習・教育目標					
備考(準備学習等)					

年度 2009 学期 前期	曜日・校時	金・6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	言語と芸術 (室町～江戸時代の日本語の世界) Language and Art (Japanese Language from the Muromachi era to the Edo era)			
対象年次 1・2年次	講義形態 講義		教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:川口敦子 /Eメールアドレス: atsukok@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部本館 6 階 /オフィスアワー:随時(要事前予約)またはメールにて				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 授業のねらい: 室町時代末期～江戸時代前期 (16～17 世紀) は、日本語が古語から現代語へと大きく変化していった時期に当たる。この授業では、当時の話し言葉を中心に、現代語を含む日本語の様々な面について知識を深め、それぞれの事象と身近な日本語を結び付けて説明できる思考力を養う。狂言やキリシタン資料といった、当時の話し言葉を記載した資料からは、ほとんど現代語のような特徴も見られ、「江戸以前＝古典」というイメージを覆してくれることだろう。古典は難しい、苦手だ、という先入観を払拭し、ひいては日本語への関心と意欲を高めるのがねらいである。 授業方法: 毎回、狂言台本とキリシタン資料 (プリント) を読解し、そこから読み取れる言語事象について取り上げる。狂言についてはビデオ鑑賞も行う。 授業到達目標: 古語と現代語を含む日本語の様々な様相について、理解を深め、授業で取り上げたそれぞれの言語事象について、具体的に自分の言葉で説明することが出来る。狂言及びキリシタン資料それぞれについて、知識と理解を深め、具体的に説明することが出来る。				
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 前半は狂言台本、後半はキリシタン版をテーマとして、毎回一つの言語事象を取り上げて講義する。狂言の回(第 2～8 回)では、狂言をビデオ鑑賞し、台本を読み、室町～江戸時代の日本語がどのようなものであったのかを理解する。擬音語・擬態語や待遇表現、狂言独特の言葉の使われ方にも注目する。キリシタン版の回(第 9～14 回)では、天草本『平家物語』や『エソボのハブラス(イソボ物語)』、ロドリゲス『日本大文典』などを見て、当時の日本語の語彙や音韻、方言などを取り上げる。また、ヨーロッパ語を日本語に翻訳する際に生じる問題にも触れる。 第1回 ガイダンス 狂言とキリシタン版の紹介 第2回 狂言について(概要) 第3回 狂言台本の言葉 1 第4回 狂言台本の言葉 2 第5回 狂言台本の言葉 3 第6回 狂言台本の言葉 4 第7回 狂言台本の言葉 5 第8回 狂言台本の言葉 6(中間まとめ) 第9回 キリシタン版について(概要) 第10回 キリシタン版の言葉 1 第11回 キリシタン版の言葉 2 第12回 キリシタン版の言葉 3 第13回 キリシタン版の言葉 4 第14回 キリシタン版の言葉 5 第15回 まとめ				
キーワード	日本語 狂言 キリシタン資料			
教科書・教材・参考書	プリントを配布する。参考資料は講義中に適宜紹介する。			
成績評価の方法・基準等	○定期考査 80%、授業への取り組み(毎回の講義で提出する小課題または寸評) 20%			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ /学習・教育目標				
備考(準備学習等)				

年度 2009 学期 前期	曜日・校時	火・7	必修選択	選択	単位数	2
授業科目/(英語名)	社会と歴史(日本近世史) Society and History (Modern Japanese History)					
対象年次	1・2年次	講義形態	講義	教室		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		科目分類	人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員: 柴多一雄 /Eメールアドレス: shibatak@nagasaki-u.ac.jp /研究室:本館 5 階 505 室 /TEL: 820-6346 /オフィスパワー:火曜日 17:40～19:30						
担当教員(オムニバス科目等)						
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 日本近世史を素材に歴史に対する理解を深めることを目的とするが、特に近世日本の歴史を一般的な歴史としてではなく、九州という具体的な地域を通して考えていくことを目的とする 授業方法:テキストは用いず、配付資料と板書を中心に講義形式で行う。 授業到達目標:自分が属する身近な社会について、基礎的な歴史知識を獲得し、歴史的に考えることができるようになる。						
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 兵農分離制・石高制・鎖国制によって示される日本近世社会の特質と九州という具体的な地域がもつ独自性が、どのように関係しながら近世九州の歴史が展開していったのか、さまざまな問題をとおして検討していく。 第1回 オリエンテーション 第2回 豊臣秀吉の九州平定 第3回 江戸幕府の成立と九州 第4回 鎖国と貿易都市長崎の成立 第5回 藩家臣団の構造 第6回 城下町と町人の生活 第7回 農村と農民の生活 第8回 在郷武士の社会と生活 第9回 享保の飢饉 第10回 近世の貨幣制度 第11回 街道と近世の旅 第12回 近世九州の産業 第13回 近世九州の文化 第14回 開港と貿易都市長崎の変貌 第15回 まとめ						
キーワード	日本、近世、歴史、九州					
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。 参考書は講義時間中に適宜紹介する。					
成績評価の方法・基準等	小テスト 50%、定期試験 50%					
受講要件(履修条件)	なし					
本科目の位置づけ /学習・教育目標						
備考(準備学習等)						

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 月 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	法と政治（日本の税制） Law and Politics (Tax System in Japan)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/オフィスアワー 担当教員: 栗原克文 /Eメールアドレス: kuri05@nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部本館 304 号室 /オフィスアワー:火曜 18-19 時。その他随時可(事前に E メールで予約すると確実)。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標 授業のねらい: 租税は公共サービスのコストをまかなうために、国民の富の一部を国家に移すものであり、国民の代表が制定する法律の根拠に基づいて徴収される。どのような税制を構築していくかは、経済・社会の状況を背景として国民一人一人が考えていくべき問題である。グローバル化、人口減少・高齢化をはじめとして、経済・社会の構造が大きく変容している現代において、税制のあり方についても多くの論点がある。授業では、日本の税制について、所得税、法人税、消費税、相続税などの基本的仕組みを理解するとともに、今日的な課題、考え方、あるべき姿を学習していく。			
授業方法: 配布資料及びテキストを中心として、主要な税の基礎的知識を学びつつ、税を身近なものと考え、問題意識が湧くように講義する。			
授業到達目標: 税制の背後にある考え方を学び、日本の将来をどのように設計していくべきかについて、自らの問題として考えていく能力を身につける。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 日本の税制について、基本的な仕組みとともに、今日的な課題、考え方、あるべき姿を、裁判例、欧米諸国との比較を含めて学習する。 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 総論 第 3 回 所得税(1) 第 4 回 所得税(2) 第 5 回 所得税(3) 第 6 回 法人税(1) 第 7 回 法人税(2) 第 8 回 消費税(1) 第 9 回 消費税(2) 第 10 回 間接税 第 11 回 相続税 第 12 回 贈与税 第 13 回 国際課税 第 14 回 税務行政 第 15 回 全授業の総括(試験を含む)			
キーワード	経済社会の変化と日本の税制		
教科書・教材・参考書	(テキスト)「図説 日本の税制」財経詳報社 その他参考資料は授業で指示又は配布する。		
成績評価の方法・基準等	定期テスト(70%)、授業への貢献度及びレポート(30%)により評価する。		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)	教員変更の可能性があり、その場合には授業内容が大幅に変更し得る。		

年度 2009 学期 後期	曜日・校時	金 7	必修選択	選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営（経営管理とは何だろう） Economics and Business (What is Business Management?)				
対象年次 1・2年次	講義形態	講義	教室		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		科目分類 人文社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:菅家 正瑞 /Eメールアドレス:kanke@nagasaki-u.ac.jp /研究室:東南アジア研究所 310 号室 /TEL:820-6354 /オフィスアワー:講義終了後。					
担当教員(オムニバス科目等)					
授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標 授業のねらい:経営管理とは何かについて理解する。 授業方法:講義。 授業到達目標:経営学入門の本を読めるようにする。					
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 現代企業の三重構造とそれに対応する経営管理の三重構造を説明し、経営管理と環境問題についての理解を得ます。 なお、以下の授業計画は場合によっては変更される可能性があります。 第1回 企業と経営管理とは何だろう？ 第2回 同上 第3回 企業環境とは何だろう？ 第4回 同上 第5回 環境は企業にどんな影響を及ぼすのだろうか？ 第6回 同上 第7回 環境管理とはどんなものなのだろうか？ 第8回 同上 第9回 生産管理と環境 第10回 同上 第11回 労務管理と環境 第12回 同上 第13回 市民化管理と環境 第14回 同上 第15回 まとめ(試験を含む)					
キーワード	企業（経営）管理、環境管理、生産管理、労務管理、市民化管理、ゴーイング・コンサーン。				
教科書・教材・参考書	テキスト:菅家著『環境管理の成立』千倉書房、2006 年。				
成績評価の方法・基準等	期末試験による(100%)。テキストは持ち込み可です。				
受講要件(履修条件)	ありません。				
本科目の位置づけ /学習・教育目標	経営学への興味を喚起すること。				
備考(準備学習等)	予習・復習は必ずすること。				

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 水曜日 6校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	日本国憲法 (基本的人権と権利の衝突) The Constitution of Japan (Fundamental Human Rights and the Collisions of Rights)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 大内和直 /Eメールアドレス: dahnei@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 経済学部本館 603 号 /TEL: 095-820-6362 /オフィスアワー: 毎週水曜 20 時～21 時 30 分			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 授業のねらい: 日本国憲法に定める基本原理を把握する。基本的人権の尊重、国民主権、戦争の放棄など重要事項を概観し、日本国憲法の役割を知る。また、憲法に定められたさまざまな権利の内容を学ぶことにより、国民の利益を考える。 授業方法: 通常の講義を行なう。事前に配布するプリントに沿って各回のテーマを紹介し、スクリーン(またはパネル)に授業の要点を提示しながら解説する。 授業到達目標: 日本国憲法に定めるさまざまな権限や国の責務を理解することにより、国民の権利の性質や範囲がわかるようになる。また、政治の仕組みを法的に見ることにより、民主主義を維持するための国の構造が理解できるようになる。さらに、基本的人権の内容が時代とともに変化していく様子を見ることにより、社会の進化の状況を知ることができる。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 日本国憲法の基本的な内容を概観する。その手順としては、まず日本国憲法の特徴をとりあげて、標準的な憲法の内容との違いを見比べる。次に、重要な内容である基本的人権、国民主権、権力分立など民主主義を維持するための要点を概観し、そこから権利と権利の衝突の様子を見てゆく。 第 1回 日本国憲法の基本原理 第 2回 象徴としての天皇 第 3回 戦争の放棄 第 4回 基本的人権1…法の下での平等 第 5回 基本的人権2…精神的な自由 第 6回 基本的人権3…身体的な自由 第 7回 基本的人権4…生存権の保障 第 8回 裁判所の独立性 第 9回 権力分立と議院内閣制 第10回 国民の義務(納税・教育・勤労) 第11回 政教分離と信教の自由 第12回 プライバシーの権利と知る権利 第13回 男女平等と母性保護 第14回 地方自治 第15回 全授業の総括(試験含む)			
キーワード	基本的人権、国民主権、権力分立		
教科書・教材・参考書	教科書: 伊藤正巳『憲法入門(第4版補訂版)』有斐閣双書[11263-0]¥1,680 教材: そのつどプリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等	上記の目標に対して達成度を定期試験によって評価する。(配点率 100%) 出題の要点を指摘することができるか、問題となる権限や責務について概要を適切に解答できるか、などによって評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 木・6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間の科学(心理学概論) Human Sciences (General Psychology)		
対象年次 1 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部・夜間主コース	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:朝長昌三 /Eメールアドレス:tomonaga@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 教育学部 /TEL:095－819－2295 /オフィスアワー:木曜日, 2時限			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:人間の行動を「適応と行動」,「知能」,「パーソナリティ」の分野から検討することを目的とする. 授業方法:資料にもとづく講義である. 授業到達目標:① 科学としての心理学の定義を理解する. ② 人間の行動に関して,「適応行動」,「知能」,「パーソナリティ」を理解する.			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 科学としての心理学を理解する。 第1回 「心理学とは,人間や動物の行動を研究する科学である」の説明 第2回 「心理学とは,人間や動物の行動を研究する科学である」の説明 第3回 心理学の歴史(イギリス,ドイツ,アメリカの心理学) 第4回 同上 第5回 歴史のまとめ 第6回 行動と適応 第7回 同上 第8回 行動と適応のまとめ 第9回 知能 第10回 知能のまとめ 第11回 パーソナリティ 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 パーソナリティのまとめ			
キーワード			
教科書・教材・参考書	心理学―経験と行動の科学, 鈴木清 編, ナカニシヤ出版		
成績評価の方法・基準等	4回の試験(60%)と授業の貢献度(40%)の結果を総合的に評価する.		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 木・6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生命の科学 (生命:生きることへの生物学的基礎) (Life Sciences Life : Biological basis of living)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室 新館 101 教室	
対象学生(クラス等)	経済学部・夜間主コース	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:森 望/Eメールアドレス:morinosm@net.nagasaki-u.ac.jp/研究室:解剖学第一教室/TEL:819-7019(医学部内線 7019) /オフィスアワー:火曜日 16:00～18:00 教員研究室(医学部基礎棟 3F 343 号室)			
担当教員(オムニバス科目等)	森 望、吉浦孝一郎、伊藤敬、本田徳光、増崎英明、松本正、篠原一之、花田裕子、大石和代、由井克之、中園一郎、小澤寛樹、本多正幸、福田公文、下川功		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 生命の成り立ち、人間としての成長、周囲の人および環境との対応、そして老いについて、学び、考える。 授業方法: 主に医学部(医学科および保険学科)の教授を中心に、一部民間／経済界の非常勤講師を含めた形でのオムニバス方式。 授業到達目標: 生命について、特にその本質、人間の成長の観点、社会との関係性の中でその意義を理解する。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 生命についてさまざまな観点から学び考える。 第1回 いのち：生きること／生命科学概論 森望（医学科／神経解剖） 第2回 つながる：遺伝子／生命の糸 吉浦孝一郎（医学科／分子遺伝学） 第3回 いきている：生化学／細胞の中の命 伊藤敬（医学科／生化学） 第4回 はかる：命の素材の質と量／ビジネスからみる生命と医療 本田徳光（学外／日本医薬中央研究所） 第5回 うまれる：誕生／命のはじまり 増崎英明（医学科／産婦人科） 第6回 かわる：発生／分化／発達 松本正（保健学科／基礎看護） 第7回 はぐくむ：母子関係 篠原一之（医学科／神経生理） 第8回 そだてる：親子関係 花田裕子（保健学科／臨床看護） 第9回 いたわる：男女関係 大石和代（保健学科／母子看護） 第10回 まもる：環境と免疫／自他識別 由井克之（医学科／免疫学） 第11回 さぐる：事件／犯罪と生命 中園一郎（医学科／法医学） 第12回 ゆれる：命の迷い／精神疾患 小澤寛樹（医学科／精神科） 第13回 ながれる：情報と生命 本多正幸（医学科／医療情報） 第14回 ゆめみる：IT ビジネスからみる人と社会 福田公文（学外／（株）ドリームバンク） 第15回 おいる：老化と寿命 下川功（医学科／病理学） 森望（医学科／神経解剖）			
キーワード	生命、細胞、生体、成長、老化		
教科書・教材・参考書	参考図書： 特になし		
成績評価の方法・基準等	授業への参加状況（40％）とレポート（60％）の結果を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 水・6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	物理科学 (いろんな分野から見た物理科学) Physical Science (Physical science viewed from various fields)		
対象年次 1・2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類	自然科学科目
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 古賀 雅夫 /Eメールアドレス:m-koga@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部4F /TEL:095-819-2329 /オフィスアワー:授業終了後や各教員がメールにて対応。			
担当教員(オムニバス科目等)	古賀 雅夫・藤田 伸二・河本 和明・梶島 力・勝田 順一		
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 授業のねらい： 「物理」という言葉から、色々な記号による公式をイメージする人も多いと思います。でも、物理科学はそれだけではありません。様々な分野で物理科学は応用され、社会に役立っています。 授 業 方 法： 各教員が、プリント資料を配布し、講義形式で行います。また、理解を助けたり、興味を持ってもらうため、演示実験を行うこともあります。 授業到達目標： 自然現象への興味と基礎的法則・諸事象についての理解。科学技術リテラシーの獲得を目指します。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容 (概要) 各学部の教員が、それぞれの分野に関連する物理科学の内容を講義します。各教員3回の講義です。 質問は大歓迎です。気楽に声をかけてください。 第 1 回 身の回りの物理学 いろいろなものを測ってみよう。身近なものから、遠くのものまで。 第 2 回 (古賀雅夫) 安全運転の物理科学。速度、加速度、力、エネルギー、衝突など。 第 3 回 音楽の中の物理。振動と波動、そして音階。 第 4 回 見かけの力の物理学 運動の源 第 5 回 (藤田伸二) 移動中に見える物体の運動 (1) 第 6 回 移動中に見える物体の運動 (2) 第 7 回 地球環境の物理学 風の吹き方 第 8 回 (河本和明) 地球温暖化の物理 第 9 回 地球の古気候 第10回 医療における物理学 遺伝子の構造 第11回 (梶島 力) タンパク質の構造 第12回 医薬品開発における物理学の役割 第13回 破壊事故とヒューマンエラー 破壊事故は工学的解決策で防ぐことができるか。 第14回 (勝田順一) 破壊事故に関するヒューマンエラーは誰にでも起こる。 第15回 ヒューマンエラーを防ぐためには何ができるか。			
キーワード			
教科書・教材・参考書	簡単なプリント資料を配布します。 参考になる書籍を紹介します。		
成績評価の方法・基準等	各教員が受講状況、授業への貢献度 (20%)、小テストまたは、および、レポート (80%) により総合的に判断する。意欲的な授業への参加やレポートは高く評価します。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 木曜・7校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生物の科学(遺伝子から地球生態系まで) Biological Sciences (From gene to Ecosystem)		
対象年次 1・2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類 自然科学科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:飯間雅文 /Eメールアドレ's:iima@nagasaki-u.ac.jp /研究室:環境科学部新館 221 飯間研究室 /TEL:095-819-2765 /オフィスアワー:月曜 8:30-12:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 生物の科学の基礎である、細胞を構成する遺伝子 DNA の複製やその発現機構などのミクロレベルから、地球温暖化など人類が引き起こしている環境問題などの、地球生態系についてのマクロレベルまでの広範な視野をもって、生物の科学を理解する 授業方法: テキストを用い、テキストの順序に従い、遺伝子レベルから生態系レベルまで幅広く生物学を理解してもらう。 適宜授業内容に関係するビデオ教材を視聴してもらい、視覚的にも私たちヒトを含む地球上の生物すべてに共通する生命現象を理解してもらう。 授業到達目標: 遺伝子レベルから生態系レベルまで幅広く生命現象を理解できる			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 遺伝子から生態系まで、幅広く、順を追って解説する 第1回 生物の種類 第2回 生命の基本単位:細胞 第3回 遺伝と遺伝子 第4回 DNA 複製と細胞の増殖 第5回 遺伝子発現 第6回 生殖と発生 第7回 生命を支える化学反応 第8回 動物の器官 第9回 多細胞生物個体の制御 第10回 外敵の侵入とその防御 第11回 植物の生き方 第12回 生物の集団:個体群と生態系 第13回 生物の進化 第14回 地球環境問題 第15回 全授業の総括(試験含む)			
キーワード	生命 遺伝子 細胞 個体 個体群 生態系		
教科書・教材・参考書	『コア講義 生物学』田村隆明著 裳華房 2008 年刊 適宜補足プリントを配布する		
成績評価の方法・基準等	定期考査 80% 授業中の課題に対する積極的な取組状況 20%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 火・6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)		戦後日本、中国とアジアの経済発展 (Recent Economic Development of Japan and China)	
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類 総合科学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 高倉泰夫 /Eメールアドレス:takay@nagasaki-u.ac.jp /研究室:(本)306 /TEL:820-6395 /オフィスアワー: 金曜日 4 限			
担当教員(オムニバス科目等)	高倉泰夫、田口信夫、吉岡真史、川村雄介、薛軍、立山柚彦、井手啓二、		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: いま世界経済は、サブプライム問題に始まった大不況のもとでの大きな変動期にある。そのなかで、日本経 日本経済の行く先を考えるために、近年の日本経済とアジア経済の理解が必要である。 授業方法: 教員によるオムニバス形式による講義である。それぞれがまとまりをもった講義となっているので、集中して聴くこ と。なお、教員によっては質疑応答の時間を設けることもある 授業到達目標: 上記の講義の授業に示した現在の日本経済とアジア経済の現状について、分析視点と基礎的知識につい て、説明できることを目標とする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 講義の内容を、配布される資料を参考にしながらよく理解すること。大きな変動の中での現在の日本経済そしてアジア経済 の動向を理解し、また講義のなかでいわれる経済学的な考え方を理解すること。なお、前半は日本経済を中心とし、後半は 中国を主としながら、アジア経済にふれる。 第1回(10/6) 戦後日本経済とアジア(高倉) 第2回(10/13) 戦後日本の経済発展(1)(田口) 第3回(10/20) " (2)(田口) 第4回(10/27) 日本経済の現状(1)(吉岡) 第5回(11/10) " (2)(吉岡) 第6回(11/17) " (3)(吉岡) 第7回(11/24) 中国経済について(1)(薛) 第8回(12/1) " (2)(薛) 第9回(12/8) " (3)(薛) 第10回(12/15) 金融から見た中国と日本(1)(川村) 第11回(12/22) " (2)(川村) 第12回(1/12) 南アジア経済の展開について(立山) 第13回(1/19) アジアの中の日本と中国(1)(井手) 第14回(1/26) " (2)(井手) 第15回 まとめ *オムニバス形式の講義のため、授業の順番等について変更することがある。			
キーワード			
教科書・教材・参考書	特になし。		
成績評価の方法・基準等	レポートの内容と提出回数による。 *試験はないが、各担当教員への講義終了後のレポートを提出することを求める。出席を取る予定。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	このようなアジア経済についての予備知識を持つことは、2 年次生以降の専門教育を含めての、経 済に対する経済学的な見方を持つことに役立つ。		
備考(準備学習等)	毎回の講義内容に関する質問には、各教員が対応するので、なるべく講義中または講義直後にす ること。		